環海異聞

七

no 7

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No. 7

1909407

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之七

尺度并里程第拾弐

アリシン此尺ハ彼邦の弐尺 我邦の弐尺三寸 程なり

なりかゝる所にて作りなる物にして專ら商店に

使ふ所アリシンヒミツを合せなる尺也

サシンといふにて作る工匠なつかふ是を長深に

いたり此方の曲り尺に合はしるに七尺なり

彼邦六尺なりしアリシンを半ばにしたる尺を

セヽチエヒユルトといふなり 曲りかゝ ハ本

にしたる如所作りなるこのこと 右サシン 此方の七尺にあたる

上 武藏 崎

といふ尺五百合せるか「ウーカス」彼一里あり
此方の拾遺丁ミ加里と字甲
邦円及中壱里毎(ゴト)に株杭建て
あり寛政初年松前を光ちまゝ使ひ
きりなりし人数の円イツベクフイテ」
八日本人の種子(タネ)なり今彼邦拾遺
まゝ役を勤む日本此一里と
いふを箱鍛(ハコダテ)より松前の方を万ッ出
さいころみしにオロシイアの三里ま
内おしぬけると漂流人どもすし
かそもしまし

附

間五郎兵衛重富オロシイアの里法を和
莫天文書に説る和を以て考ふ如説

アリシン　彼邦弐尺　家方曲尺弐尺三寸除分伍厘

ボアリシン　彼邦弐尺　家方曲尺弐尺壱寸扒分弐厘五毛

セラヱル　彼邦五寸　我方曲尺伍寸九分一厘弐毛五緑

サゼン　彼邦六尺アリシンの三倍　我方曲尺七尺〇九分五厘

ヨールス　彼邦壱里サゼン五百竿　我方曲尺九町八分五厘

四一七

茂質丙寅初秋間氏を司天臺に役
宅に訪ひ光右史より會せるを語次に事
及ぶ光右史曰彼六尺が称サゼンハ五百
合せて彼去里ヨールスありといふ

仙巻際客がいふ如と八分の光一あり
思尺の名サミン去里の名ウヨーロス
も稍お遠せりしかれども光右史が猶
記せる所的(テキ)實(ジツ)とをこ事に光右
史が覺へ多くの説を以て説をなし
日而ことに異なし試見るにサゼン

神曲尺にて七尺を一ヶ
尺三石五十四ヶ之

五百を合せ里ハ三千五百四十
是神郷の九町ハ三ヶヶヶヶ
なり家郷の壱里ハ弐千百六十四ヶ
壱万弐千九百六十尺なり倍々お考ふる
魯西亜の三里六ヶヶハ日本の壱里なり
同拾里ハ同弐里七三一四八一五之
同百里ハ同弐拾七里三一四八之
同千里ハ同弐百七十三里一四八之
同万里ハ同貳千七百三十一里四八之
本編中彼里數を記するものハ此筭

法ニ合セシ考へ志る事し

あるゝ仙臺漂客等いふイルコーツカより新都ベトルフルカとハ彼里數七千里あり

右筭法ニ随へハ我邦の千九百拾貳里〇三六なり

漂客等曰此七千里セームテイチウザハ國人近(ナラ)しあいふ所なり實ハ六千七百里なり公用ニ多く往来されは六千七百里志殆賃を拂ふ事れいなり

商荷の通用ハ七千里なり此ハ年ゆえたまゝ記聞をみるに五千八百廿

三里之を書ニハ五千九百八十弐里とあり
古校なるハ傳写の誤りなる事し　此日光在史に賛すに即ち
居中記に誦所載之の事此里数晴
記也頃係（シカニ）即ち記せるに所ハ皆居中一里
毎に以弄斗なるこの事れハ誤るに何故
此里かしらず頃六七千といふ数ニハあらず
と覚へ多里いつ出しか是なるにや
光在史か記要に力ミシヤーツカよし
新都ベトルフルカ是ハ彼里数ニて其里
弐千壱里ニ見ル事　これ其大略を
このなり　是正誤とて無かしさるこのと
とも

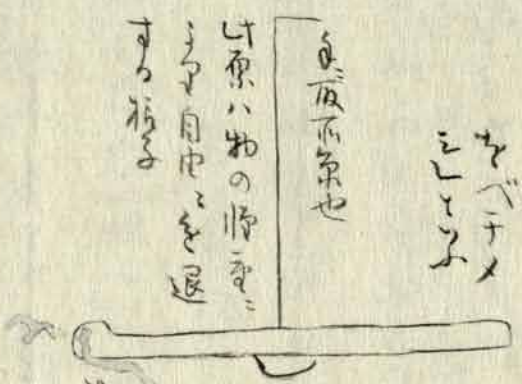
いへも誅に家郷の里数に改算し
これハ三千三百六十八里、其九なり
當使節携ひ来り所を遣んなりし
魯西亜（オロシヤ）本国地図し天殺と言
ふるなるを知しまゝ新都よりベトル
フルカ」カミシヤ」ツカ辺迄東西直径
を測ふるに此方の里数にかゝる計二千
計百二十八里なり　按蘭書に其東国長サ東西一百七十餘度に及とあり
其度家七八里計分即チ千
二十八里七十計乃
往還乃路ハ高低曲りも有る事
なれば四千四里とあれ越きゝ南北も

亦牧百里とハ甲辺ハ此諸國酒を造
事候ふ毛の地多しとハ其の本
所とあ候和の列最寶ハ世界第一ハ
鉅邦といふ也

秤量第十三

法馬 フントウ 分銅也

衝 サホ



フントハ九拾六匁共法なし程を彼ハ百匁と
九川此九拾六匁の一ツをゾロジニカといふ即ち
是を九十六合されはフントしとなる之
フート家方四貫目光ニ吏ハ四貫貳十五匁之といふ
鉦(さゝり)ハ四貫匁のこゝろ之まゝ其内ゆゑ是より下(シ)
伯(ク)かゝるもあり大なるものハ何拾貫匁といふ大量
かゝるものもあり外(ニ)評(ス)といふものハ請負賣物
なし目買ふを故に諸品ム評ゝし急ヶ賣
買をなす事なり

樂器第十四

琴 ゴウレケ 絲ハ漢書ニ見ヘ事なり 真銜もあり 四十弦なり

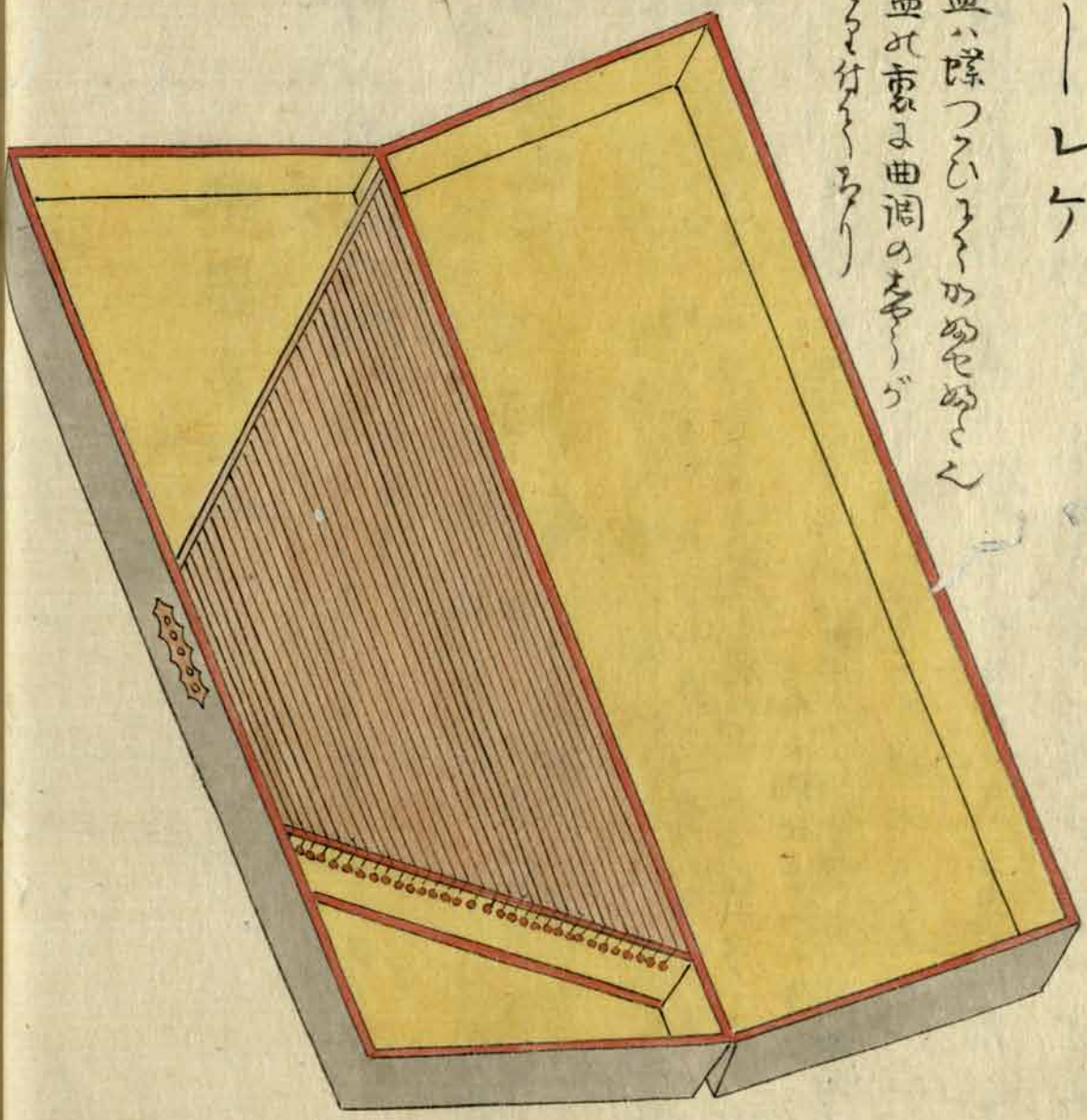
笛 ドウチカ 徒笛ニつきめにハ銀ハ脇をかへるなり 口ニ含まるゝ ぬく笛も有名をかゝす

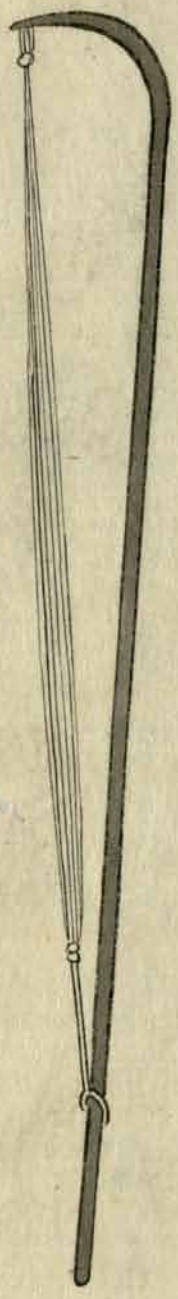
胡弓 ケレフロ 明の方を左りハ缺盆骨ハ下につき 方けくもなるゝ 肩と胸ハ上辺に横 たり大骨のるゝ

三弦 ハライカ

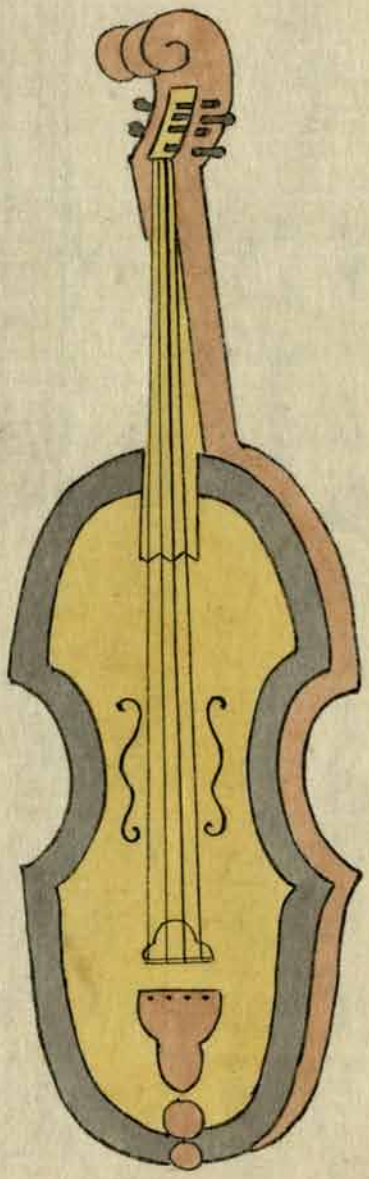
ゴーレケ

蓋ハ隙つかひまくかぬやぬとん
蓋の裏ニ曲調のあらしが
まるを付くるなり

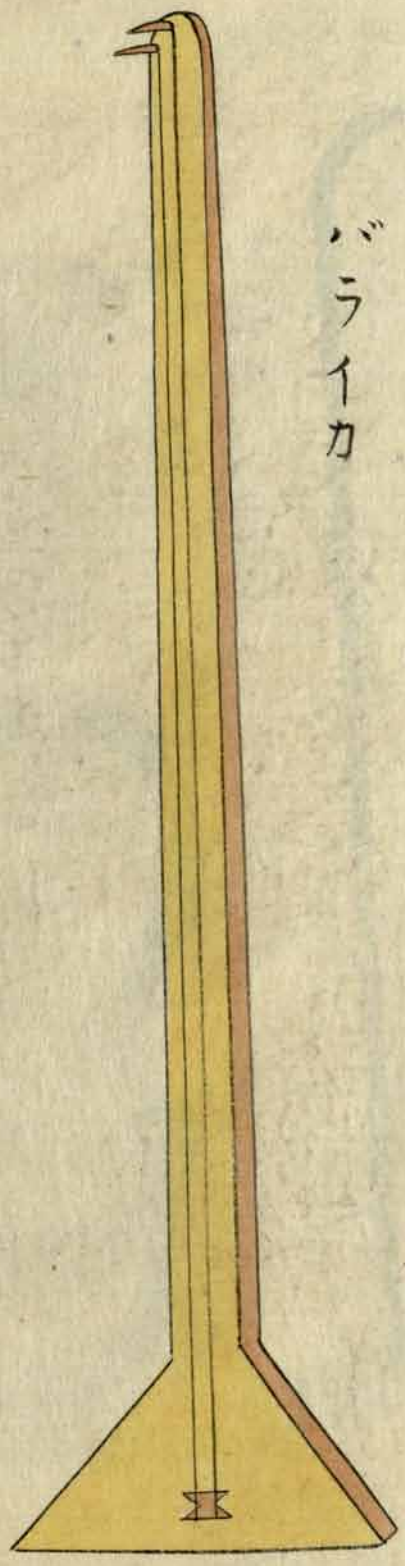




ケレフロ



トウナカ



バライカ

大鼓 バラハシ

又長サ弐尺八寸ニ先キ象し異義
おしゝ方旋回吹き和之名を不覚
柄に和菓にいふトロムヤツト
あるか 此條未色し
あるをなうに見留次是に出来 宴巻 九二十
なるものとき用中都府にて雜劇
をみさるに専ら此楽人有意出
おに並居を後辺にして戯子舞
踏をなり

氣令第十五

諸篇に於て其事に就きよりて詳說する
ことしくなり別に等て載せる說になる也

耕農第十六

田畝なく圃のみなれば地をさきさく麥穀
を敷し前に薑を用ゆる事なし
菜蔬とても同し九十月の比河内の上々
麥穀をおこなれば事に詳篇に
出せるゆゑ也　他に深き
細かしの相し

交易第拾七

諸篇小録しく畧載されることのゝ如し
其国知東よりまゝ商法色品ゆゑ書事ハ
詳ならるゝを得ず

醫療 第拾八

内科をトノトル（和菜も可意也）外科をレーカー」と
ハ内体のことのとも一通疫疾を頼しと式
医師来りて診脈しつゝもしと（白き松菜を
一例小茶（アタ）へより療治中事なりしかん前来れ
り始終精方もなきさ様ハ見事義平
疫瘡を病ミしとき瘡へ出来
医をぬらせ候ハ薬ハ与へ候

大熟みしこゝ大便秘結せしか肛門
よりも流れて藥を以注射して粗なく
通しつ或る事此時は何れとも病ことる
事なるべきし右腸藥せきりを医家にも
往きみたるまゝありしに単に日のめき病
み抽斗（シキダシ）なりこと内にフラスコ入りて
藥色くあるを見たり又是此後養せる
病人を語るに引き切り療治せし
ヤコしツカ」にて見たり其の外他家にて
医療の事見聞し次右藥の粗なるも
見せず次病ひ何しといふ病あるにて

知らせてツンカ」といふ病を知らせ柳子之新るの筆
小説く一トセ大きに夜病の流行せし事
ありき

物産 第拾九 動物

魚アレハ 鮭ケツタ 鱒ゴボーシヤ

鱈タラ 乾シタルあ テレツカ 比目魚ハートス 鯨ケトウ

右の嵩ふるく鯨を(多ふ名目なり)

章魚アヽラ 是ハカミシヤーツカ 語ナリ

イルコーツカ辺ハバイカル」といふ聞より

漁る魚類境蔵(ヅケ)にやる物多し　たの
品みなり
オヲモリ鮓のごとき魚之又江戸にてさんまといふ
魚の形も似たり
オシヤテレナ沙魚屋仙巻に海にて漁るくろ
こざめ又いそざめのこと歟物にて大魚なり料
大低四五歩目をたひなるものハ十二歩
目なりとあり　左平ホハイカル湖へ行きとる時　十一歩六百目の魚をはなると　背は
亀甲形なり右のごとき之のつく頂より
背筋の屋端まくいぶくありて二条斗
の棘刺(トゲ)を生ず腮み鰓(アラ)なし　ゆゑ

小孔あるを全く糞之肉皮身のかたは黄色
裏は白し脂多く骨も柔に味美之こと
中は生魚にて肉氷りたるまゝにて来る
なり常時は塩漬にしてしまらく たゞ年にハイカル湖へ漁
獵に往きたる時の話の
ことに記す
オヽクニヨ形石酋魚如此し 但シ以に石なし
七八寸ヨリ貳尺五寸位にてあり 右三種サ モーサヨ 即
ハイカル湖に産す
ハーロス ねいなめ 仙窟の方云 ねるをとゝ云 のこと柔魚之
イルコーツカ近邊の川にて點し
漁りを買まして賣ふ
タイメレ頭鄭のことく 全身悉白く肉も白く

味美なるを

ナレニ泥鰌のめくみしく體ぬるくを但

髭もし大魚にしてこ三貫目程アリ

カラシ鮒 近在川ぐちり

蝿モーハ蚊カモル 虱オヽヒ 大光フセイ

蚤フーカ 大光オヽヒ 蟻 蚯蚓

蜘蛛 蜂 蜜ミヨート

蛇ミニヤアヽ ミミヤヽ 蝶ツスノーコ 鳥ビツセイツ

鴉 カンガラ　雀　鶏 雄ハイトウカ 雌コーレウ

凡テ雄鳥をバイトウカ」といふ

卵 ヤヱツザ　燕 ツハタ　夏の内ハ土を含く

巣ふ事は方ゐ同し

雁 ゲーシヽ コーシヽ　三四月の月あり帰れ時は何月と

といふるを知らず人家に畜ひ無く影変

あり煮焼して食料とする 欲食の部に

設ふる

鷲 オートテカ オツーテカ　畜ひ無く食料とする

雉 ゴロハグイ大サ雁ぬめし雌をセンしとる

鳩ゴロフ　食料とな次

からん鳥　インテイツケコーシツ又インデイカ

此鳥を元より青鳥なり上等志人の食料とせ中より以下の人は暗れ木の重き家集の時のことはうしゝセロフレゝ家ゆは四五十も畜ふてあり

柿ゝインデイツケレコーシツレハ印度（インテイ）

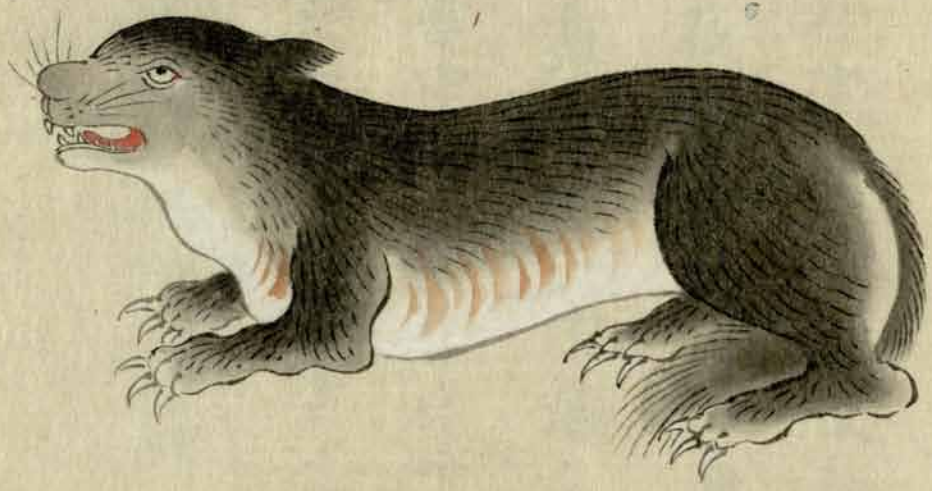
窮れ義相相翻し和蘭にはカラクンセーレルレといふカラクーンハ印度の一地名れよしホーゲルハ鳥なり

我邦にてカラクンテウといふハ此誤りて
漢名下編雜なるべし

鶴 鶴名あり 名ふ是 尾の長き鶴名ふ是
鶴ひなけたるすなり名ハふ事
こゝ物をひんく名を高めしたるやとふる
こゝ字ゆうを載立ひるす前にめし
ソーボリ此物止白里忠名産なり波裘中
のむ上好とせる物なり時にハイカル湖の邊
にて取り獲る物を高し 上品 と 其
ドンゴスワラ 射ふり是を貢上す 其主の夫人アンガリ
ツケといふ処に在 第次老丈の便百五十年 徳皮紙七十枚 徳
なり彼邦通用
銀をいふ
大さ猫ヨリハ大にして狗ヨリハ

小サク脇（恰）好ヲ免程ナリ毛細ク長ク黒色
ニシテ赤ミヲ帯ヒ居ルヲ柔ニ志ルラツ云ヘ
腰尾部ハ赤色ナリ甚タ怖ル人或汚爪ヲ
西躰猫のめ――黒ウ髭ハ長胴のひたるゝ
め――

中篤より以上ハ人々衣服ニ用ヲ足皮を
縫合ヘルヲ其の表枝美平撰其ヲ
右ハ語ニ正る所の形状ニ於テ新ニ図ヲ作リ
具を示ス彼示ヲ暗記ナル和を以テ是ニ正
をかゝ依テ即ち是図ハ左のめ――



天工開物貂産遼東外徼建州地及朝鮮國其鼠好食松子夷人夜伺樹下屏息悄聲而射取之一貂之皮不盈尺積六十餘貂僅成一裘服貂裘者立風雪中更暖于宇下睬入中拭ハ之即出所以貴也色有一種一白者白銀貂一純黑ロ一點黄色而乇長者近値ヒ一帽套已五十金

貂鼠 事物異名 蒙古呼曰不魯還朝鮮トウヱ 朝鮮賦

天工開物貂産遼東外徼建州地及朝鮮國
其鼠好食松子夷人夜伺樹下屏息悄聲
而射取之一貂之皮不盈尺積六十餘貂僅成一
裘服貂裘者立風雪中更暖于宇下睡入中
拭之即出所以貴也色有一種一白者白銀貂
一純黑一點黄色而毛長者近值一帽套已五
十金

貂鼠 事物異名 蒙古呼曰不魯還朝鮮トウ 朝鮮賦

擻其裘船來アリ裏面ヲ見レハ至小キ皮ニテモ
經合セ製ス毛柔軟ニメ白色コレハ銀貂ナリ
紫貂ノ皮ヲ帽縁及裘領ニ用ユレハ寒風防
ト云

貂 コレシカ尾長短二種あり蒙古志産ありと
いふ猫此来ヲ貂をみしに甚たちにしてもしん
ぬまちぬまに高高所高の物をなり

鼠 ヌイシ

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

犬

いバカ日本志めき物なり又耳も長く面の長さとおなじ下彼さまあるべし大なるもあるべし

豕

シユンヤ毛黒色白或まだ斑毛もあるべし

此豕の外皆畢丸(キンタン)をなす畜して食料とす畢丸を去り養ふ事ハ肉犯て味美

牛

コロソ牡(牡)ベイゴフ毛色ハ種々有此事也

白用志食料と云

馬

コーニ牡(コーニ)牝(カボラ)と云日本にあるべし

文馬の外皆畢丸を取事也

かくれおしきゑ[注]ハかんつよく　きゑをかけて
草外沢又小鼻を切るなり是ハ息我
茂らに右に右に左にいふ同料ハ雑草斗り
あるを田塾中間場あるを古經諸々の物傷
なりとく熱園あるまゝ事ハ生成さしむ
ふ所前ゟ取て干　無きを冬月来同料と
二度生の艸生したる時ニ生廣塾ニ
敬王のゝをさまちて彼に言ましむ
事ハ川へ云さつむしのまし　もの
とゝなるを
羊バラ二色黒白又斑とあるを　ちゝむしるなる

毛を剪ミほとかをハ綿ハ無めくなれ其を
以て屋紗類の毛織を織ふなり又皮絨
のもちあるにしく賣買次を投ハ價ハ
貴し

綿羊ヤニン毛長きしゝ高葉の裏を着るなり
此毛を取りたきなるに唐麻布に織らなる
又なるし皮とし種々此事に用ゆる
絲なり併毛皮を羊家之トスなるへハ
ヤニン綿羊ハ皮ハ百匁なるとしばハラニ
羊の皮ハ五百匁なり

雌牛コジヨウ羊に似たる此羊ハ他の皮ヨリハ

良好なり此ふたるまや皮といふ類の物は
是なり

木鼠 ビヨコ

兎 オンカン皮は衣服となる是を重く暖なる
しるの之は物曽西亜人は食料となる
凡ソ獣類犬猫者足踏のことき物を
食ひ兎も猫足者如ぎ有之る而
併ヤコーラブラッケハ食料ともなる

麻 オレニ皮を剥き用ヲ草ヨリも作る
トンコス」は馬の如ク伏ひ荷を結
しく薬を釣とあるとふ又氣汁を飲

牛の如く用甲毛多といふくの種あ
あれども色薄く斑(ニシラ)ちあるは皮をもつくる
按るに一種副麻(オシン)といふ之の此地方皆と
ゆゑ梨大光日此方のかき麻彼方に本し角なら
ぬにてオレンといふことのあり此方若麻とちがひ
角にずひあく毛短く皮柔にして黄あり角白く
そのあまく白犀角其かたと又牛角に似たり
大成ハ天案なり

聖猪 名ふ覺光 シヒニアン 毛を食五食料と次

猿 サンガ 尾長猿之称猴ハ又更次

熊 ミチウエナ 毛色黒又淡赤 羅なくし 種とあり

尾ホース

海獺（ト）（ヾ） コーシキ オンニアレイツケ。オストロ巳の海中ニ多
獺まるをつくなり

海豹 子ルバ

獵虎 ホフロウ

駝 名ふ等 頂の所に痛あり 惣身毛色 赤ミに灰
大光ヘルカウタ 毛からまくつん中イルコーツ力の役所
ミ丈個色
あるをつくり 拂子駝なれ色
ベトルブル力 都府の町屋ニ 内ツ 畜産
いるをつくるなり 巳万巳万 祿 米 象なり

高サ八尺鼻を伸セハ五尺ニ至ル六尺位ニも
なるゝ牙ハ横切るもんへてゑきに云す斗り
強さ至ル肥脚を強さ云ふさまにて繋ぎ
りし此鄭ニの横腹ヲモ鼻にて走と
きりなし

鬼 ニヤヲ此方にある画ハ鬼なれ鬼ゆゑ図を
出(斷ヲ)いふ帰帆のせの船をうけしニルケイ
ス島の人をさしてゼイカとゝひし
是ハ鬼人ともいふるのよし

桃柏

雲 名ハ是ニ近く近くるゝ所し 幡ををなし

五葉雲 スヽノウ 材木影 梢材ホヽつゝ炭も
焼なり 炭オゴリ 松實 オヒヒ
菓子に用ひ油もかくきに影あり
青瀝青 松根を煮しくとるは
セクツノ木ニースラ脂スモロー とゝ
ちにのせば柔かなるなり
レイシニシノ冨士雲に似たる物にて影あり
雲木なる前にたる詩をまを以て咲れば
とげこれ松樽なとはめくこそち
延るなり
ケトロライ 云ふれてきて松と實多くし 所て

大さ握ふ所を能こたち延ねまなり
實を油とも用ゆるなり

大葉櫟（カシワ）タブ常の品に異なり五葉の雲花
如ゝ延ふなり又タブを我國にるのさ木
と呼ひ綱なと法ふ木に同しきれ
オホしいかしをイルコしいカ」近の石中
に多し大木も八尺柁などを使用
す

櫻（ベレワウ バリコーワ）大木を蒸ぬ嗜ぬ樹にて國中繁く
ちらく諸我に新いるゝ用ゆ

樟（クスノキ）カノルハ他国ヨリ来ふよし葉なとにたのつゝ

多くの垂く樟猶カヌハといふカラユツスナロ
本セリソ内帆者節亜墨利加(アメリカ)ゝ檣(ホバシラ)に買
求めし木なるを又是に似るに天木ゝ
質堅く有ゝ良木とも申ふこのゝ此地
求め来るも諸省此上諸ゝ給に然せり
其切揚を使ふ所に能ひ貴ひうけ事
日本尺に化るもしかも終矣せり

竹カメーシ此地竹ハ更に有し他邦ゝ本ゝ
能竹あるのゝなり都府にムスクーモリ
しといふ諸國志産物を養ふる物あり
此所にゝ長さ壹丈二三尺の大竹あるを

凡為生而不知之所以起之此度也
仗節も長崎之所の上書生行相出
載せ為也
之穀 之蔬 之菜 之菓
菜ヒナ 化邦より来るよし 南アメリカ」より渡る
よし 精(シラ)けまて送る之
豆 ゴロフ
大麦 ヱテメン 麦 裸(カラ) ソロモ
裸麦 ヱリセメ 燕隣にしたるをケレブ」とひて
當食とす所之
小麦 センイシノ

茱萸 ライジカ

莖 ライバ

蕎麦 ゲレシヨウシノ挽割みしこの賣買ス事ヲ
為中用と次是煮へ為ス事をいふ
他の麦類よりハ價貳錢 洞渉 口も同し

挽割コカバ粉コツカ根コレニ莖シケナ 麻仁
麻仁コノヒ 麻 ロセー 仁 シカ

セーシヨーしハ悪く種子の事をいふ人
万の種といふもセーシヨーしといふなり
假令ハ日本人の多様といふをニワボン
ツケセーシヨーしといふ麻 コノヒロ ハ一種悪

灰にて晒すべし至て漂白なるものゝ

苏子 コロセワサ

葱 ロソロ

大蒜 ツスイエ

茸 鬱初茸 雜茸 白初茸 志ゑじ 惠ゑ

ゑこゑ 食ふ 何ともかくし 至ともたし

ぬるもたし 皆も名皆ふ事 こ経ゑ

食料とハ 世間凡茸 ゑ五月より

七月ひとし 採り 食ふ大 俗語 清ほして

用甲生にて 用甲ふハ 細く裂キ 挽割

麦へ魚を 煮出し 塩を加へ 茸ヲ入

合ふ

蕨

名ふ見山に生ひ食料とす漂客にも
是を採り日本にて食ひかく持へ名
稱へりを彼國の人へんくゐ其めく
とくこなくしまひ多りし

ヤーボルキ一種の芋淡黄にして其邦其さと
よし芋の色のこと其丸き芋なり
いやて能し稱にしく薬子に作るなり
稱をさて愛ふふかく名に帝に載せ

爪アルホース

瓢タン南アメリカにて多くつくなり

番椒（トウカラシ）　ヘイレツ　唐山（ケタイツケ）よりの交易ものに来たる
然し　然し　茶のましく来る茶の上に漢字
を帰帆の茶は甫アメリカ」のヱカラリナ」とて
此あ木にありてそちのひ多なるものをえたり
胡椒　コロコシノ圓ヘイレツヌアスタラ　他邦（コウ）を来ると
カンツケ地名ヘトレツ

數量第二十

一　オヒン　二　トウ　三　テレ　四　チヤライレ　五　ヒヤアシ
六　セイシ　七　セイム　八　オヲセム　九　ゼイウヱチ　十　セイセツ
十一　オセンナツナイ　十二　トーウヱナツサイ
十三　テレナツナイ　十四　チヤテレナツサイ

十五ヒヤナツサイ　十六セシナツサイ
十七セムナツサイ　十八オヽセムナツサイ
十九セイウヱナツサイ　廿トウツナツサイ
廿一トウツサイオセン
三十テツサイ　四十ツーロケ
五十ヘツシシャウ　六十セツシタツ
七十セムラシヤツ　八十オヽセムテシヤツ
九十セウヱノスト　百スト
千テイセツサ　一万セイセツテイセツサ

土俗風習　貳十二

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

婦人想しく乳をのらはれは常に是我のかたきと
故に賤婦と雖も不文なるなるなし日本通
詞役トコロコフレ共宿に在し時こと書初生の
児に婦くのしうし始てみよりき

按に阿葉陀想房固より右の海にハと
聞ゆ諸国僧ともしそのども其話を
笑しるあるに南山廣東出の事なる
又かくれことしかるを

人多くハ五十六十あるて初て妻を娶なり
是風俗なり其の志ある者ハ大小何ぞ志ら其
功名を立さり内にハ家の累ひを求ぬといふ

様なるを五六十ゞ来てるを深なるよって已に
十五六より十七八又ホ口出中ゟも遠ふかる
壽をそれなるを
彼國も人ハ壽天ハ回し変あるとも中ニ
九十七百歳にあれ人いくらもこれ甲七八十以上
老人を老人とスタラといふとし五六十歳此人ハ老者
といいそれ此ハ歳ゝ初ゝ室を前にす
右のいふかぬし此歳の人との壽ぬいまって
第五あるとの常にこれ見しあり
七十八拾口出といふ獨の所にて起ちまる
者遂にこれ五六十口出といふ男ハ年齢ヲも

按又ハ大斧を推のくて遠山へ推つまるも知ん
且彼人れているくの骨折仕業しても終て
腰痛むなと云しを笑ひ
按小通がき門ハ室ヲ有ル事故ニ
精氣自分充實せ流ゆく強健
形なるゆゑ
男女交會の事過致さこそより宜敷
知にあしは又をくなしく傷ともあると
陽帆のこみ中にても軽き若更せ一ハ役
人なるを知件しく恥をかけるとしユツベルハ
しカ」ニルコイス」の両知ならん女人を深

ゆるす右の趣なれ[illegible]ことはかゝ祢て日本
も嘴の湊へ出しなば逗留をもかゝる[illegible]
其地者賣女求免樂まんとて各彼七人こ
樽に本國洞後を筥を貯へ来れ然れとも
此取扱ひの處なれば世の聞ちなる迄みなて
中くそしれしなるに及ぶ無き居ても法
度特別れしなり
七人宿にあるまく深町なる所を室中深町
道遥しなる往来數十万まるなり用ゆ
なくしく徒に接手かゝる居るなし
彼をもても暫時の事なり

按小農生者為其身體を運動する
故なる金し阿蘭陀人なども居く
のくさ相かし是我ロンテレといふ相行
間走といふ義之通詞者軍兵を兼人
百足をふむといふ之

中等より里以上者婦人老少ヲ分多頃まゝなれ
女子仲りとく男子なりれハ再縁中頃尼と
なりまゝるを多く 利髪ハ尼寺 一ノステライ 入行之
初弱とくも男児あるいハ後に家をたてそ
児をえらぶ
なりを内家お續まゝる之女子婚嫁なりを
内を 授髪之五六十里に なりまゝるを

同し様なりれて娘子の事ハセイフカとふ
こなたけ髪なり此故ハ老婆となりて居たり
人こセイフカと呼ぶ也女子身持あしかれたる
て淫行あるか又足怪なりのかるを扶持人
の娘なれ私に出敗（カクシハイジヨ）しこの不業あるにこの
なり是ハ人こ要るなをせ候故に年を重
祢ても生涯セイフカの姿にさけかこまて
居るなり右の姿者女人ハ目をなる故
寄て能ろふるに従死の数れて自害して
死せるにこのハ仏罪（罪をケラ　イカイ）なる宗旨
を門ぬれたるなりとも其れ屍我車に載せ

雪中をうり廻し捨ましくて右捉(キのこと)れのあゝ葬りて
ちれうり卒ハ家ありすを行ハイルコしツカ逆留
中はうり廻しを両家をみたるも
大冨商ケセロウ」ゝ家弟某商向き志
雷頭としるすカニしツカヽオホしツカ
逢へきし並いるゝ身放物の所業
さあるくしんケセロフ方へ算用見ゝ次
家ハ帰るまゝ後私ハ徴死せりされ
固ゝる大法ハ行ゝるゝ家をるゝ
家家れ皆あれハ内々の取結ゝ法
すとさこく病死ハ名なりせし赴き

同し様なりしを娘子の事ハセイフカとふ
こなたけ髪なり此故に是波となりてあるなり
人こセイフカと呼ふ也女子身持あしくまたを
て淫行あるか又是悔なりのかるを扶持人
の娘なを私に出(カクシハイジヨ)故こしの不業あるにこの
なり是ハ人こ要るなをせ候故に年を重
祢ても生涯セイフカの姿にさけかこまて
居るなり右の姿者女人ハ目をなる故
なて能ろふるに從死の報しを自害して
死せるにこのハ仏罪(罪をケライカイ)なる宗旨
を仰ぎ此者なるとも其此屍我車に載せ

雪中を引迫し捨書之ゝ右（平のこと）様れのあゝ葬りて
ちれ引寄ハ家れ事を行候イルコしツカ逆留
中此引迫しを両家を見たるを

大富商ケセロウ」ゝ家弟某商向き志
雷頭としまゝカニしツカヽオホしツカ
逢へきし並いるゝ身放物の不業
さあゆゝ見ケセロフ方へ算用足ゝ次
家ニ帰るまゝ後私ニ償死せりされ
固まる大法ニ行ゝるゝ爲きるゝなるニ
爲家れ勢あれハ内々の取結ゝ法也
すとさこく病死ニ名なせし趣き

いつかの地も年頃中の事に也と云へり
煙草は男女を若おしなべて彼さるにハ
あれ頃まゐしにのむ人なり之ヲ（カヘツガタ）の人を
時々愿に飲（ミ）樂しミと云ふ事の様子なるを
煙草ハ金石本磁器様とて悪名ヲカン
サレといふ焼物にさるの物をハトロブコといふ
銀にて作るなるをとへり右いつらぬ皇
人々皆用ゆるにハ何し次但し海之後世
さる人多くハ吃煙さるゝ是ハウンカ（按に首腿牙）
疳といふ病と人事といふ病を防しる事なるをとて
（おに記ス）
止白里地方の種族（ヒトヒ）ヤコーテラーツケ」ハ

あらし是を好こ腹もちふこと其筈なり
深宮に何也も煙草を好こ嗜こし故
土産書案たるに我求免諸こ志さり
て別こ稽せり古地の人こハ右いふぬく
なる故是を為て臭しとひ或ハけむ
しとひて避けいとひ多きは遠と
のこ而くの里をも退こ移り之店のり
住居せし時ハ他に憚ありなれハ
各おそふ侵れのこつけ多き
古人其ひ里是をいへる大ひに
喫り若ひ多里にれとも恐にのに

くらしいけりと

嚊煙草（ガギタバコ）鼻煙といふ事あるは是は乾煙の粗
末にしるる物をもふに撮（ツマ）ミ鼻より嚊しる
なるされ形氣の外襲を除くこそ也と此事
是は人にもる事なるは甚煙末を野に蒸飛
ち下関者ぬくあるを細工は精粗種々を
拵れ名をタハケーリカといふ（拵和葉ケバスト トスソイソ）
し込といふ女人を絶て吃煙也但右嚊て
煙草は老婦なるはまさしく用ゆる物あり
嚊て淨を蒸ちし鼻拭て居れ我
おこ又更なるを

桜に欧遊巴例（オロウハシウ）を何也の国も悪く
婦人吃煙ハセ候と和菓人云ひし
よし

女子遠生の者共外ハ紅粉をと粧ふ男女
髪には油をつけるなるもボニタといふさとき油共
如く何にこゝろ製さるに物ゆゑ次かし樟脳臭
し油をつゝ多く上へハヤしボルキムツカといふ物を
糝（フリカ）けおくヤトホキしハ一種共芋なるムツカし
粉の事なり（菜蔬の部に詳にも）但し之人のこかくいた
さるなり

桜に和菓人を髪に白粉を如くし

其品何如なれハ来て望ハ須是彼地方
の風俗ゆゑか年七頃と雖も早く老
成の姿をなす頃をいふといふ

凡そ噴嚏する事あれハ是をきく人 大光スタ ラストケラ
スケレと注する 嚏めし 多人シバンイハといふて謝する
れなかる
おどと
いふり 又ナッドロイヤともいふ 是ハ丁寧
ニ唇くトれする祥なり

一按ニ是意味知る為かしら頃戎邦人をし
くさめされバ己る事を人の嗜する人と
て自らの過言を吐く是と大ニ異なり

環海異聞巻之七終

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM